

日本分類学会連合ニュースレター

News Letter published by the Union of
Japanese Societies for Systematic Biology

No. 25 [2014年12月1日]

第14回日本分類学会連合公開シンポジウム

会場:国立科学博物館講堂(上野本館)

日本分類学会連合第14回公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を望む」及び「分類学と応用科学の接点—人間社会にとって必要不可欠な分類学」が以下の要領で開催されます。

シンポジウム1

「国立自然史博物館の設立を望む」

日時:2015年1月10日(土) 13:00~17:00

会場:国立科学博物館講堂(上野本館)

開催趣旨

東北地方の博物館等施設に保管されていた自然史標本が東日本大震災で被災したことを教訓に、日本学術会議基礎生物学・統合生物学委員会合同「自然史標本の文化財化分科会」と「動物科学分科会」、そして「自然史・古生物分科会」の3分科会は共同して第22期学術の大型研究計画マスタープランに応募し、「自然史科学のイノベーションを目指す国立自然史博物館の設立」が学術大型研究計画の一つに採択された。このことを受け、国立自然史博物館の設立の重要性を社会へ発信し、学界での機運を盛り上げることを目的とする。

プログラム

13:00~13:05

連合代表挨拶

村上哲明(首都大学東京)

13:05~13:45

日本学術会議が進めてきた国立自然史博物館の設立要求

岸本健雄(お茶大・サイエンス&エデュケーションセンター)

14:30~15:15

学術大型研究計画「自然史科学のイノベーションを目指す国立自然史博物館の設立」について

松浦啓一(国立科学博物館)

15:30~16:15

自然史標本の保全と新しい国立自然史博物館構想

西 弘嗣(東北大学学術資源研究公開センター)

16:15~17:00

国立自然史博物館に何を望むのか—地方博物館からの視点

瀬能 宏(神奈川県立生命の星・地球博物館)

17:00~17:30

国立自然史博物館の設立は自然史科学に何をもたらすのか

西田治文(中央大学理工学部)

シンポジウム2

「分類学と応用科学の接点—人間社会にとって必要不可欠な分類学」

日時:2015年1月11日(日) 10:00~16:45

開催趣旨

分類学が古典的学問であるという認識が一般社会だけでなく科学界にも広まっており、日本の大学などからは分類学に関連した研究室が消滅しつつある。このような事態を好転させるためには、分類学者自身が分類学の社会的重要性を捉え直し、社会へ発信していく必要がある。今回のシンポジウムは分類学が無限の可能性を秘めていることを世の中にアピールする試みの一つである。

分類学は生物多様性を発見し、記述し、体系的に理解することを目的としており、すべての多様性生物学的研究の基礎を提供する学問分野である。それゆえ、生物多様性の保全・回復、生物資源の持続的利用といった21世紀を生きる我々にとっての重要な課題とも密接に関わっているのであるが、そのことが一般社会にはあまり認知されていない。近年の分子系統学、進化発生学、保全生態学などの新しい学問分野の目覚ましい発展の背景には、永年の分類学的研究の成果の蓄積とそれに携わる分類学者の絶え間ない努力があることはまぎれもない事実である。そして、分類学は我々の生活に直結する応用科学(医学・薬学、農学・林学・水産学、材料科学)にも基礎情報を提供してきた。生物は40億年ともいわれる長い歴史の中で様々な系統を生み出し、それぞれが変化に富む地球環境に適応する過程で、様々な構造や生理的機能を獲得してきた。それらの中には我々の生活に有用なものが数多く眠っているからである。しかしながら、残念なことに分類学と応用科学の交流は活発とは言いがたい現状がある。

今回のシンポジウムは分類学の持つ大きなポテンシャルを社会に対してアピールするという「攻め」の試みである。分類学者は日々格闘している生物達が備える「構造」、「機能」、「特性」を披露する。一方で、応用科学の研究者はそうした生物多様性の宝箱から見出した我々の生活に有用な生物資源や情報を披露する。生物多様性の活用において鍵となるのが生物の正確な種同定である。種が違えば、生物学的な特性が異なるため、正確な種同定ができなければ、生物資源としての価値を正しく評価できなかつたり、見過ごしてしまつたりする。また、種同定に疑義が生じれば、寄主特異性、薬剤抵抗性、感染自然史などの情報の信頼性が大きく揺らぐのである。したがって、分類学者に対する大きなニーズが確かに存在するのである。

このシンポジウムが様々な研究分野の聴衆や一般の聴衆の興味を大いにそそり、分類学と応用科学との交流が発展し、そして「絶滅危惧種」になりつつある分類学初学者に希望を与えることになれば望外の喜びである。

プログラム

10:00~10:10

連合代表挨拶

村上哲明(首都大学東京)

昆虫の形態研究とバイオメティクス

野村周平(国立科学博物館動物研究部)

アリのペプチド系毒素の多様性と分類学

稲垣英利(産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門)

モウセンゴケ属の種分化と日本産種にみられる抗アレルギー効果

星 良和(東海大学・農学部)

海綿動物の分類から見る共生微生物および天然物の関係

高田健太郎(東京大学大学院農学生命科学研究科)・伊勢優史(名古屋大学大学院理学研究科)

フグは食いたし、命は惜しし：フグ類の分類と毒性

松浦啓一(国立科学博物館動物研究部)

水産学に必要な不可欠な形態学・分類学

大塚 攻(広島大学大学院生物圏科学研究科)

多様な酵母の能力と応用利用

正木和夫(独立行政法人酒類総合研究所)

抗酸菌属に潜む分類学と臨床現場の乖離

和田崇之(長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野)

海産珪藻類が形成する休眠期細胞の分類

石井健一郎・神川龍馬・宮下英明(京都大学地球環境学学)

日本分類学会連合加盟学会の大会・シンポジウム

種生物学会

第46回種生物学シンポジウム

会期：2014年12月5日(金)～7日(日)

会場：富士 Calm 一般財団法人人材開発センター富士研修所

日本魚類学会

2015年度日本魚類学会年会

会期：2015年9月4日(金)～7日(月)(予定)

会場：近畿大学奈良キャンパス

日本菌学会

日本菌学会第59回大会

会期：2015年5月15日(金)～18日(月)

会場：那覇市ぶんかテンプス館(3階, 4階)

日本古生物学会

日本古生物学会第164回大会

会期：2015年1月30日(金)～2月1日(日)

会場：豊橋市自然史博物館

日本植物分類学会

2014年度日本植物分類学会講演会

会期：2014年12月13日(土)

会場：大阪学院大学

日本植物分類学会第14回大会

会期：2015年3月5日(木)～8日(日)

会場：福島大学

日本進化学会

日本進化学会第17回大会

会期：2015年8月20日(木)～23日(日)

会場：中央大学後楽園キャンパス

日本藻類学会

日本藻類学会第38回大会

会期：2015年3月20日(金)～24日(火)

会場：九州大学箱崎キャンパス

日本動物分類学会

日本動物分類学会第51回大会

会期：2015年6月13日(土)～14日(日)

会場：広島大学東広島キャンパス

日本哺乳類学会

第5回国際野生動物管理学会(2015年札幌)

会期：2015年7月26日(日)～30日(木)

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト(TAXA)は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。TAXAメーリングリストは下記の趣旨により開設されました。

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト(TAXA)」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほか、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

2003年12月21日
日本分類学会連合
代表：加藤雅啓

〈TAXA〉は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼働開始しました。2014年12月1日の時点で【1025】名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、〈TAXA〉運営担当の三中信宏(taxa-admin@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

[編集後記]

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は富川宛(tomikawa@hiroshima-u.ac.jp)に電子メールでお送りください。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。

(ニュースレター編集担当：富川 光)

日本分類学会連合ニュースレター 第25号
2014年12月1日発行
発行者 日本分類学会連合
事務局 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館・筑波研究施設内
編集者 富川 光 (広島大学大学院教育学研究科)
